

令和6年度社会文教常任委員会行政視察報告

社会文教常任委員会は、令和6年7月9日から7月10日までの2日間、千葉県千葉市及び埼玉県上尾市において視察研修を行った。

1. 千葉県千葉市（NPO 法人ユニバーサル就労ちば）

「ユニバーサル就労に関する取り組みについて」

■ユニバーサル就労とは

ひきこもり状態、生活困窮、心身の病気など、様々な要因が理由で働きたくても働けない人が増えている状況から、その人なりの働き方を行えるように、当事者、支援者、企業が一緒に考え伴走型の支援を行う仕組みである。

■法人の設立

母体である社会福祉法人生活クラブ風の村は、現在従業員1900人、約80ヶ所の福祉事業を展開しており、2006年同法人の一事業として「ユニバーサル就労」の仕組みが構築された。その後、生活困窮者自立支援制度の就労訓練事業のモデルの一つとなり、さらに広く普及啓発していくため、2015年に法人格を取得し、NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちばが設立された。

■事業内容

「働きづらさのある人は就労支援だけでは支援しきれない」という考えのもと、幅広い対象年齢、相談内容を想定した支援活動を行っている。現在、行政からの数種類の受託事業、また法人で独自事業を行っている。

行政からの受託事業	法人の独自事業
○こわか・ひきこもり相談事業 ・千葉市ひきこもり地域支援センター ・千葉市子ども・若者総合相談センター	○受託事業以外の就労支援相談窓口 ・働きづらさを抱える全ての就労相談 ・風の村 UW の外部支援団体として UW 支援
○就労支援事業 ・千葉市就労準備支援事業	○コンサルタント・普及事業 ・ひきこもり支援・就労支援等の外部講師
○就労支援事業 ・千葉県ダイバーシティ就労モデル事業	○県内就労支援関係者ネットワーク会議 ○広域型就労訓練事業説明会
○自立支援事業 ・千葉市（花見川区）市内4か所目	○ユニバーサル就労プログラム評価普及事業

■ユニバーサル就労支援の特徴

1. 対象者を限定しない
2. スライド式の就労ステージを構築
3. 業務分解
4. 外部支援者とのチームによる定着支援

・スライド式の就労システムは、無償コミューター、有償コミューター、UW雇用Ⅱ（最賃保障職員）、UW雇用Ⅰ（一般賃金職員）に分けられる。働く準備の段階の人、働くことの慣れる段階の人、仕事のスキル向上を目指す人など、取り組む分野を支援対象者の状態に合わせて動くことができる。誰もがどの分類にもあてはまるため対象者を限定しない。また、分野によって契約や報酬の形が異なっている。こうした取り組みを重ねることで働く上で自己の特性を認識し、課題に対しても適切に検討することができる。

※コミューター（Commuter）とは、「通勤する人」という意味。ボランティアとは異なる。

・業務分解は、業務内容の分野ごとに分け、支援対象者にとって得意なこと、できることに絞り込んで業務に取り組むことである。例としてメンタルダウンした支援対象者がいきなり複雑に入り組んだ業務を行うのではなく、特性に沿った業務のみに集中することで、働くことへの適応性を無理なく育てることができる。また、事業所側は業務分解で空いた部分を別業務の創出に充てるメリットがある。

・外部支援者は職場内と支援対象者との間に入り、働く上での不安や課題の解消を目指す。外部支援団体の例として、生活困窮者自立支援事業、中核地域生活支援センター、ハローワーク、地域障害者職業センターなど。ユニバーサル就労ネットワークちばでも、風の村ユニバーサル就労推進課が支援を行っている。

■まとめ

・行政がユニバーサル就労支援を行うにあたって、まずは一つの事業として集中して取り組み、必要な外部支援者の配置を行うこと。

・富士市を例に行政による条例制定と広報による発信が協力企業の増加につながっている。

・相談窓口の呼びかけ方によっては対象者を限定したり、特定の言葉の引っ掛かりで相談につながらない場合があるが、「ユニバーサル」という言葉がつくことで相談してみようという気持ちになりつながったケースもあるため、相談者側に配慮された重要な言葉である。

2. 埼玉県上尾市（子ども・子育て支援複合施設AGECOCO）

「子ども・子育て支援複合施設AGECOCOについて」

■施設の概要

令和5年4月に開設した子ども・子育て支援複合施設AGECOCO（あげここ）は、2か所の保育所、児童発達支援センターつくし学園、発達支援相談センターを統合した複合施設である。保育施設の老朽化や、つくし学園の通園希望者の増加に伴う定員超過、離れた場所に各施設が位置する影響など、いくつかの課題を解消する目的で4施設が統合した。複合化により、保育所では低年齢児の受け入れ枠が拡大し、つくし学園、発達支援相談センターでは、「気づき」から「専門的な療育」まで同一施設内で切れ目ない支援が可能になっている。また、保育所とつくし学園では、子ども同士の関わりとして「交流保育」が行われている。

■発達支援に関して寄せられる相談内容、傾向

主な相談内容は「ハイハイしない、歩かない」「視線が合わない」「言葉が出ない」「落ち着きがない」「家では困っていないけれど、園で困っている」など多岐にわたる。背景として、核家族化や少子化に伴い子育ての協力者やモデルがいない、遊び相手がいないなどが挙げられる。また、好きなものにのめりこめる環境（YouTube視聴など）、子育て方針の多様化などが起因している。

■保護者が施設へ相談するきっかけ

生まれてすぐに疾患が見つかり病院等から紹介されたり、ことばの表出が遅い等保護者が不安に思い相談に至ったり、乳幼児健診等で相談を勧められる。また、幼稚園等の集団生活で所属先の先生から相談を勧められることも多い傾向にある。その後、個別の相談や親子教室に通い、発達の経過を情報共有しながら、つくし学園の見学を経て入園の希望へとつながっていく。

■医療的ケア児の受け入れ状況と退所後の進学サポート

つくし学園では、日常的に医療的ケアが必要な園児を受け入れている。ケアの種類として、経管栄養、酸素吸入、薬液吸入、吸引などを行っている。また、日常的な医療的ケアはないものの、けいれんがおきた際に座薬を挿入するように医師から指示を受けている園児も在籍している。看護師4人を配置し必要な医療的ケアとともに、他の園児と一緒に保育・療育を行っている。

子どもにとって望ましい就学先を選択できるよう、市教育センターや特別支援学校から説明者を招き「就学に向けての学習会」を年長児保護者に向けて開催している。また、クラス担任が進学先の学校に出向き情報共有を行うなど連携を図っている。

■交流保育

○大谷西保育所の子どもたち

・障害があり、装具をつけている子どもに対して、保育者が説明をすることなく、一緒に過ごす中で自然に理解し受け入れている。歩くことに時間がかかる子どもについて、共に過ごす中で理解し、待ったり、ゆずったりすることを自然に身につけられている。

○つくし学園の子どもたち

・保育所の子どもたちが遊ぶ様子を見たり、遊びを真似してみたりなど、多くの刺激をもらうことで、成長につながっている。周囲の人への関心が育ち、人を気にしたり、声をかけられたときに返事を返そうとするなど、コミュニケーションの意欲が向上している。

■親子教室事業

ことばが遅い、落ち着きがない、友達と遊べないなどの発達に関する心配ごとや、病気・障害を持つ子どもとその保護者を対象に、集団遊びや個別相談、保護者学習会などを通じて子どもの発達を促していく。現時点で年少未満児は午前週1回、5クラス、年少以上は午後月に2回、4クラス運営している。令和5年度の実績は、実施回数327回、出席延べ人数1,854人。今後の集団生活に向けた練習の場として参加することにより、子どもの発達を促し、保護者は子どもの発達課題からどのような対応が望ましいか理解する効果がある。また、年少以上児のクラスでは、在籍園においてよりスムーズな集団適応ができるようになっている。

■地域との交流イベント

地域のインクルーシブ推進を目的に、交流イベント「AGECOCO（あげここラウンジで遊ぼう！）」を令和5年度に試行的に2回開催した。令和6年度からは年3回定期的に開催する。大谷西保育所とつくし学園の子どもたち、さらに地域から親子の参加を呼びかけ、手遊びや紙芝居、ゲーム等を一緒に楽しむ内容となっている。発達のゆるやかさや障害の有無に関わらず、子どもたちが同じ空間で遊びを楽しむことで、多様性を認め合い豊かな心を育むことを目的としている。

■配置されている専門職

発達支援相談センターの発達訓練・相談業務に配置している専門職員は、理学療法士3人、言語覚士3人、作業療法士1人、公認心理師2人。そのほか、親子教室職員への助言、幼稚園、保育所、学童保育所等への巡回事業において、専門性を生かし幅広く子どもの発達を支援している。つくし学園では、理学療法士2人、言語聴覚士1人、作業療法士1人、公認心理師2人が多角的な視点で子どもと保護者への専門的な療育支援を行っているほか、日々の療育、保育について職員が助言を得ている。

■まとめ

- ・複合施設であるため、幅広い人が利用できる施設設備となっている。体の障害に関係なく、誰もが一緒になって遊べるインクルーシブ遊具のほか、熱中症対策で園庭にミストシャワーが設置されているなど安全面も配慮されている。
- ・多様な交流の場は、施設内の交流保育だけでなく、地域インクルーシブの推進により地域にも広がっており、地域の交流拠点の一つとして機能している。子ども同士が交流の中で多様性を認め合い、また保護者同士も交流することで抱え込まない子育てを行える機会を作っている。